

# 一次脳卒中センターコア施設に認定されました!

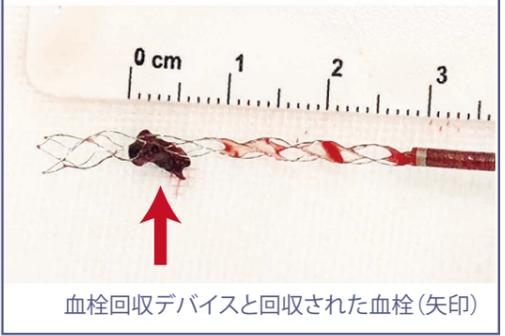
高度脳卒中センター 教授 はやし けんたろう 林 健太郎

当院に高度脳卒中センターが開設して2年間が経過しました。県内の医療機関の皆様のご協力を得て、日夜、脳卒中の救急処置や脳卒中ケアユニットでの入院治療に励んでいます。

脳卒中では運動麻痺や言葉の障害といった重篤な症状が出現しますが、血栓溶解薬 tPA やカテーテル治療 (写真) などの進歩が著しく、ごく早期に治療すれば、症状が回復することが多くなっています。早期に専門的な治療を提供するために、日本脳卒中学会と都道府県が協力して、脳卒中の診療体制が優れた医療機関を認定しています。tPA 静注療法が可能な施設は一次脳卒中センターに認定され、さらにカテーテル治療が可能な施設は一次脳卒中センターコア施設に認定されています。本年度からは一次脳卒中センターコア施設の条件が厳しくなりましたが、当院は引き続き認定されました。高度な医療からプライマリ・ケアまで、脳神経内科、脳神経外科、看護師、リハビリテーションのスタッフが協力して丁寧に診療しています。これからもどうぞよろしくをお願いします。



血栓回収療法の様子



血栓回収デバイスと回収された血栓 (矢印)

## 一次脳卒中センターコア施設 認定要件

- ① 一次脳卒中センターに認定されていること
- ② 脳血管内治療専門医が3名以上常勤であること
- ③ 血栓回収治療実績が年間12例以上あること
- ④ 自施設において24時間/365日で血栓回収治療に対応可能であること
- ⑤ 脳卒中相談窓口を設置すること

**脳卒中ホットライン TEL:090-2750-7524** (救急隊、医療機関専用ダイヤルです)

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2023年1月15日～年2月14日 対象者: **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/1(木)～ 2/28(火)	令和4年度 第3回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上の動画配信	<b>一般 医療</b>	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



## CONTENTS

- ・年頭のご挨拶2023
- ・病院長補佐(改革担当) 就任のご挨拶
- ・一次脳卒中センターコア施設に認定されました!
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報

# 年頭のごあいさつ2023

病院長 しいな ひろあき  
椎名 浩昭



あけましておめでとうございます。

昨年中、皆様には多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

また、昨年はコロナ感染症の第6、7波の影響を受け、面会制限であったり、医療従事者の濃厚接触者あるいは感染者の増加に伴う手術の一時的な延期、また院内クラスターに伴う外来あるいは入院を含めた診療制限など、皆様方には多大なご迷惑ご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

当院は島根県における医療の最後の砦として、さまざまな診療科あるいは部門の総力として“救える命を救う”を信念に島根県の医療を支えるべく活動してまいりました。高度脳卒中センターあるいは総合周産期母子医療センターの本格的な活動に加え、手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ Xi』の2台目を導入し増加する泌尿器科領域、消化管領域、呼吸器領域、婦人科領域の手術に対応すると同時に、医療安全面を重視しながら新たに肝臓や膵臓のロボット支援手術にも着手いたしました。島根県医師提供体制から見た弱みであった膠原病診療体制に新たな息吹を吹き込むべく新教授を迎え、前教授の尽力で構築されたりウマチネットワークの更なる強化と人材育成に力を注いでおります。島根県行政との連携事業「子どもの心の診療ネットワーク」に加え医療的ケア児支援センターの開設を行い、地域における医療支援提供体制の更なる充実も図りました。また、本年は、昨年来から着工していた放射線治療新棟がいよいよ完成し、より確実に安心な最新放射線治療を提供できる体制となります。さまざまな医療現場で使用・応用される高気圧酸素療法も開始いたします。不妊治療や小児疾患における診療体制も充実させ、既設の小児心臓血管外科に加えて、小児脳神経外科領域も充実させていきます。

私たちの目標は地域医療の充実であり、地域医療という言葉が一人歩きしてはいけません。地域医療とは、医療機関にとらわれずに各医療圏で取り組む医療体制の改革で、地域住民の健康を支えていく体制そのものです。まさに、「壁を取り機能強化を実行する」ことです。地域医療をより一層充実させ地域とともに生きるために、新たに“地域医療政策センター”を立ち上げ、医師の働き方改革をおこないながら行政とともに医師派遣を考え、地域の医療サービスを俯瞰して統合できるセンターを設置することにいたしました。地域医療という言葉の本質を鑑み、目標と手段を取り違えないように充実した地域医療を提供したいと考えています。

最後に今年の干支はウサギです。ウサギは穏やかに見えますが、実は外観から伺い知る以上の脚力をもっています。静かに騒ぎ、穏やかにしかし着実に飛躍する、そんな年にしたいと考えつつ病院運営を行ってまいります。どうか皆様方におかれましては引き続きご支援とご理解をいただき存じます。

今後とも何卒よろしくご指導の程お願い申し上げます。

## 病院長補佐(改革担当)就任のご挨拶

放射線医学講座 教授 かじ やすし  
楫 靖

この度、改革担当の病院長補佐を拝命いたしました放射線医学講座・放射線部の楫靖です。大田市出身であり、24年ぶりに島根に戻ってきました。両親を島根に残した状態でしたが、県内の医療従事者の方々のおかげで安心して他県で勤務できました。心より感謝申し上げます。

私が2006年から2022年7月まで在籍していた栃木県の獨協医科大学病院でも、8月に当院に着任してからも、中央部門である放射線部の立場から検査を受ける患者さんや検査を依頼する診療科の先生方のニーズを収集して工夫を試みました。放射線部内の医療安全に関しては被ばく管理、造影剤副作用対応、読影レポート未読管理などに対応してきました。部内でトラブルが生じた時には、放射線科医だけでなく、依頼医や、診療放射線技師、放射線部看護師、事務職員から現場の情報を聞き取り、医療安全管理部門や感染制御部門と協働して、病院全体のことを考えて改善を図るよう取り組んでいます。

また、当院で実習をする医学生や看護学生は大学および地域の宝です。COVID-19の拡大がある中でも、学生自身が自分で考えて動き、安全で充実した実習にすることが大事で、その後は最短の時間で国家試験に合格し、地域の医療を支え発展させて欲しいと伝えています。学生であってもどの職種であっても、島根県の医療を自分が貢献できる分野として捉え、何ができるかを考えて周りと議論し実行する。そのような行動力のある医療人を育成することも、医学部附属病院の大事な役割と考えます。

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」であり続けるために、椎名病院長から示される方向へ病院全体が進む際に生じる課題について、院内外の様々な方々とその重要性を共有し、解決に尽力して参ります。

皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





# ご報告

## PICS予防

### ～集中治療部栄養サポートチーム(島大ICU-NST)を結成しました～

集中治療部 副部長 にかい 二階 てつろう 哲朗

全身状態が重篤に陥った患者さんは、状態が改善したあとも Post Intensive Care Syndrome (PICS: 通称ピックス) の状態になることが懸念されます。重症となった疾患や大きな手術など侵襲的な医療行為により身体的・精神的なストレスが治療過程の中で生じ、そのため全身の筋力が低下、認知機能が低下することがその病態とされています。その状態が遷延し、高齢者など一般的に身体機能の弱い方にとって日常生活に戻りにくい状況を作ってしまう。

では私たち医療者はどのように患者さんが PICS になることを防ぐことができるのでしょうか？

私たち集中治療部における新しい取り組みについて紹介します。集中治療部には二つのチームがあります。その一つが 2019 年に結成しました「早期離床チーム」です。このチームは言葉の通り、廃用萎縮の予防として座位、立位の訓練、リハビリテーションを早期に、積極的に行うことを目標とします。この目標達成のためには、全身状態を安定させ、適切な疼痛管理を行うことが必要になります。人工呼吸管理や ECMO 管理を行っている患者さんにおいても早期離床は積極的に行います。その際には、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・臨床工学技士によるチーム力が求められます。

そしてこの早期離床を支えるためには適切な栄養管理を行うことも重要になります。2022 年、私たちは早期離床チーム同様、多職種によるもう一つのチーム「集中治療部栄養サポートチーム～島大 ICU-NST～」(写真)を結成しました。集中治療を必要とした患者さんの栄養状態は急激に悪化します。栄養状態の悪化は大きく身体機能を後退させます。そのためできるだけ早期に栄養を開始し、状態に合った栄養管理(図)を行うことが必要となります。この活動により早期離床が可能となり PICS 予防に繋がることを期待されます。

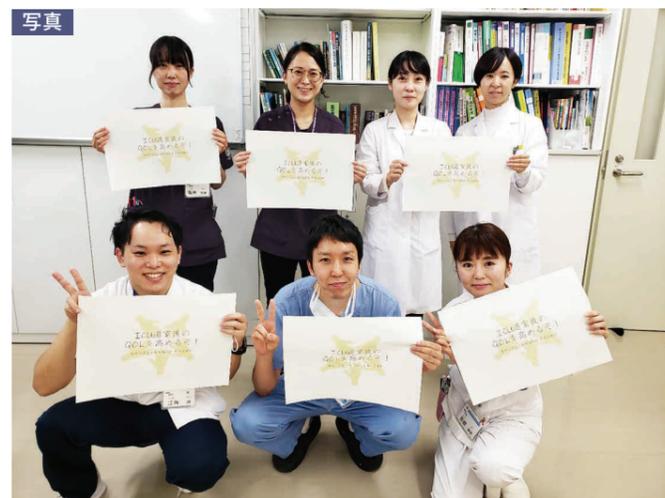


写真 当院集中治療部栄養サポートチーム～島大ICU-NST～

### 図 栄養チームの活動内容(目標)

- ・予後改善とQOLの向上
- ・できるだけ早期の栄養開始
- ・低栄養予防
- ・状態に合わせた栄養管理
- ・適切な排便、整腸管理

問合せ先 集中治療部病棟 TEL : 0853-20-2453



# ご報告

## 超高水圧加圧玄米の長期摂取は加齢による骨密度低下を予防する

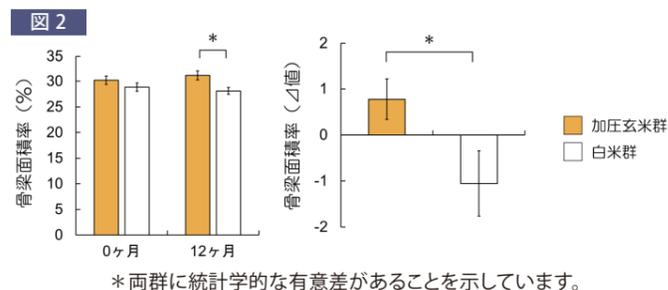
生理学講座環境生理学 教授 しどう 紫藤 おさむ 治  
講師 まつざき 松崎 けんたろう 健太郎  
客員教授 はしもと 橋本 みちお 道男

高齢化が進む中、骨粗鬆症が大きな社会問題になっています。玄米には各種ビタミン、ミネラル、食物繊維などの栄養素が豊富に含まれていますが、調理しにくく食べにくいなどの理由から、白米に比較して消費量が低下しています。近年、6000 気圧までの水圧を印加可能なピストン型の超高水圧加圧装置が開発され、この装置で玄米を処理することで得られた超高水圧加圧玄米(加圧玄米)は玄米のもつ様々な難点が解消されており、老人性疾患の予防への応用が期待されています(図1)。本研究では、加圧玄米の長期摂取が高齢者の骨密度に及ぼす効果について検証しました。



図1 お米の栄養素は約95%がぬか層と胚芽部分に含まれます。6000気圧での加工により栄養素を損なわないまま、玄米独特のにおいが消え、調理しやすい加圧玄米が出来ました。

島根県飯南町在住の健康高齢者(40名:平均年齢73.1歳)を対象とし、白米群と加圧玄米群の2群に割り付けました。加圧玄米群には1日あたり加圧玄米100gと白米100gの計200gを、白米群には白米200gを提供し、12か月間摂取していただきました。介入前後に骨梁面積率と血清骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b:骨吸収マーカー)を測定しました。



介入後の加圧玄米群の骨梁面積率は、白米群に比較して高度に有意でした(図2)。介入前後の骨密度の変化値を解析したところ、白米群では骨梁面積率が減少しましたが、加圧玄米群では有意に増加しました。介入後の骨梁面積率と血清TRACP-5b濃度の間には負の相関が認められました。以上の結果から、加圧玄米の長期摂取は、高齢者における骨密度低下を抑制し、骨粗鬆症の予防に寄与する可能性が考えられます。

Matsuzaki et al., J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2019; 65: S88-S92.

問合せ先 生理学講座環境生理学教室 TEL : 0853-20-2112





# ご報告



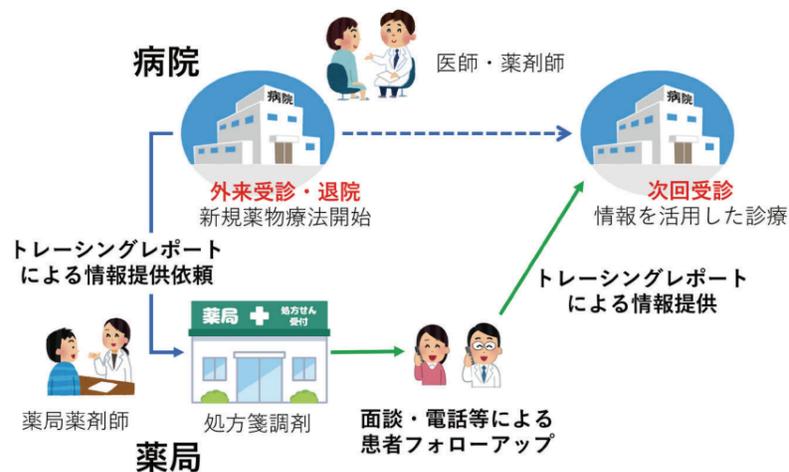
# ご報告

## 病院と保険薬局の連携によるシームレスな薬学的ケアの提供

薬剤部 部長 なおり 直良 こうじ 浩司

当院では、外来患者さんの薬物治療をフォローアップするための1つの方法として、服薬情報提供書（一般に「トレーシングレポート」とよばれる）を用いています。外来受診された患者さんに当院薬剤師が面談して、必要な服薬指導を実施します。その際に、フォローアップが必要な項目をチェックリスト形式で記載したトレーシングレポートを保険薬局薬剤師あてに作成して、フォローアップを依頼します。保険薬局では、次回受診ま

図 トレーシングレポートを活用した病院と保険薬局の連携



での適切な時期に患者さん宅への電話や来局時の面談により、服薬状況の確認や副作用モニタリングを実施します。その結果を、トレーシングレポートに記載して当院へ返信するという運用としています。当院では、受領したトレーシングレポートの内容を主治医や薬剤師が確認して、次回来院時の処方や服薬指導に活用します（図）。

このようなトレーシングレポートは、様々な診療科と薬剤部で協議してそれぞれの疾患領域別に専用のシートを作成しており、現在、周術期管理、糖尿病、緩和ケア、吸入療法、がん、炎症性腸疾患および関節リウマチの領域について運用を行っています。

当院薬剤部では、病棟薬剤業務、薬剤管理指導や退院時薬剤情報管理指導に代表される入院患者さんへの薬学的ケアとともに、外来患者さんの薬物治療についても、今回、ご紹介したような保険薬局薬剤師と連携した取り組みを進めていきたいと考えています。

問合せ先 薬剤部 薬務室 TEL : 0853-20-2463

## 肝疾患診療連携拠点病院の取り組み

肝疾患相談・支援センター センター長 とびた ひろし 飛田 博史

当院では主に術前検査となりますが、年間約1万人の患者さんが肝炎ウイルス検査を受けています。このうち陽性だった患者さんに精密検査の受診を促す取り組みを行っています。2019年12月から2020年12月の期間は、カルテから治療歴等が不明だった陽性患者さんの主治医に連絡を行い、肝臓内科への紹介をお願いしていました。2021年1月からは肝臓内科から直接患者さんに電話で連絡を行い、治療歴等の詳細についてお話を伺ったうえで受診を促す流れに変更しました。その結果、精密検査の受診率は100%になりました（図1）。今後も通院や治療が必要な患者さんを漏れなく拾い上げるため取り組みを継続していきます。

また、島根県は、肝炎ウイルス検査の受検・精密検査の受診・受療・フォローアップという取り組みを促進する肝炎医療コーディネーターを養成しています。島根県肝炎ウイルス検査委託医療機関にこのコーディネーターを配置することで検査委託料の単価が上がるという県独自のインセンティブがあります。しかし、コーディネーターの配置率はまだまだ不十分な現状があり、インセンティブを活用し委託医療機関での肝炎ウイルス検査の実施促進につながるよう、肝疾患診療連携拠点病院として県と協力しながら取り組んでいます。

図1 院内の肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨状況(2021年1月~12月)

### HBs抗原検査

受験者：10498人  
 陽性者：101人（陽性率1.0%）  
 治療歴等詳細不明者：46人  
 （主治医から紹介：7人、患者に電話：39人）  
 詳細確認：8人/詳細不明：38人（他院受診：5人）  
 受診者：33/33人 **受診率100%**  
 受療者：5人(CHBI例・再活性化予防4例)

### HCV抗体検査

受験者：9983人  
 陽性者：211人（陽性率：2.1%）  
 治療歴詳細不明者：47人  
 （主治医から紹介：7人、患者に電話：40人）  
 詳細確認：19人 詳細不明：28人（治療不可1人）  
 受診者：27/27人 **（受診率100%）**  
 受療者：5人 受療予定者：3人（他疾患加療中）  
 治療不適：1人

(2021年1月~12月)

問合せ先 肝疾患相談・支援センター 0853-20-2721（受付時間9：00～16：00）





# ご報告

## 2022年度 消防訓練を実施しました

会計課施設管理室

2022年11月29日(火)に出雲市消防本部の協力の下、「2022年度総合消防訓練」を実施しました。

深夜2時にA病棟6階から出火したとの想定の下、夜勤看護師、当直医師、防災管理センター職員、警備員、仮想患者役の職員、自衛消防隊等の総勢67名が参加し、消防機関への通報と学内の連絡、初期消火並びにストレッチャーや車椅子を用いて入院患者さんを避難誘導する訓練を行いました。

また、出雲消防署消防隊により、A病棟6階ベランダからの放水訓練と逃げ遅れた患者さん1名をAB病棟屋上からはしご車で救助する訓練も行われました。当日は強風かつ途中から雨も降る悪天候下での実施でしたが、無事に訓練を終了することができました。

訓練終了時に出雲市消防本部から、通報や避難に時間がかかったので今後の課題として欲しい旨の講評を受けました。また、訓練を重ねることで落ち着いて行動できるようになるので継続するようにとの指導をいただきました。

今回の訓練での課題を次回に改善できるよう努めるとともに、今後も多くの職員に訓練を経験してもらうことで、自主防火体制の強化と防火意識の向上を図ることとします。



担架による仮想患者の避難

車椅子による仮想患者の避難



自衛消防隊本部



はしご車による病棟屋上からの救助

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2053



# ご報告

ワークライフ  
バランス週間

## 応募作品の表彰式を行いました

ワークライフバランス支援室

当院のワークライフバランス支援室は、「ワークライフバランス週間」の啓発活動の一環として例年実施している「WLB川柳」及び「WLB実践例」の募集を今年も行いました。今年度は過去最高の応募作品があり、多数の応募の中から優秀作品等の選出を職員投票及び病院長、副病院長、病院長補佐が行い、12月13日に「WLB週間応募作品表彰式」を開催しました。当日は椎名病院長をはじめ、各副病院長及び病院長補佐にもご参加頂き、総勢20名の受賞者が参列し、賑やかに行われました。



問合せ先 ワークライフバランス支援室 TEL: 0853-20-2015

今回も仕事や家庭に関する作品のほか、「コロナ」、「ジェンダー」、「円安」、「知らんけど」、等、昨今の世相や流行語を想起させる作品も多く寄せられました。

コロナ禍が長期化し、「新しい生活様式」が求められる中、これらの応募作品を通じて応募者の方々それぞれの日常生活や働き方の新たなスタイルが感じられました。今後も本支援室では職員一人ひとりの「仕事と生活の調和」を見据えた支援に取り組んでいきたいと思ひます。

### WLB受賞作品

病院長・大野副病院長賞	減らしたい 超勤時間と 体脂肪	ちょこちょこ
医学部長賞	リモートへ 割り込む子供に 皆笑顔	パパ2年目
田邊副病院長賞	カレーの香 夜勤間近と 泣く我が子	M看護師
田島副病院長賞	無くしたい 定時帰りの 罪悪感	ピンクパンダー
竹谷副病院長賞	休日は 子供と公園 膝にきた	グルコサミン飲もうかな
田中看護部長賞	ノーマスク 海外では日常 知らんけど	F
坂本病院長補佐賞	もうとまれ 円安コロナ 体重計	ホスピタルドッグ
渡部病院長補佐賞	スリム化は 仕事と家事と わたくしと	再雇用職員
楯病院長補佐賞	「いつ帰る?」 小さい上司の 鬼コール	たむ
名越病院長補佐賞	受賞し 増えた生きがい WLB川柳	友禅菊
矢野病院長補佐賞	配膳中 夕飯メニューを 思いつく	ゆりかご
深見病院長補佐賞	推し事で 充電完了 お仕事へ	推し活推進委員会会長
金崎病院長補佐賞	自粛中 コロナ禍明けの 旅の予習	P
佐倉病院長補佐賞	家事分担 あいた時間で リフレッシュ	3人の母
河村病院長補佐賞	信じたい コロナ禍明けた 新時代	298ra
和田病院長補佐賞	「早いじゃん!」 子に褒められる 20時前	おーどるーきー
長井病院長補佐賞	マスクでも 言葉と瞳は 笑顔です	匿名希望
直良病院長補佐賞	夕焼けが 見れて嬉しい 定時退勤	今でもママ
浦田事務部長賞	イクメンと 思っているのは あなただけ	しょうたママ
実践	ワークライフバランス実践賞	仕事は100% プライベートは120%で楽しむ!! 常にありのままの自分を大切に。 A病棟4階





島大病院ニュース 2023年1月

# ご報告

## 病棟のみんなでクリスマス会をしました!

問合せ先 小児病棟 TEL : 0853-20-2616

C病棟6階 看護師長 ながた 永田 りか 里佳

島根大学総合理工学部建築デザイン学科の大学院生が作成した動画で始まったクリスマス会。「クリスマスのうんちく」「くすつと笑えるサンタクロース」「まちがい探し」「きよしこの夜ができるまで」の4本をみんな真剣に観ていました。院内学級の生徒と先生による演奏では、生徒1人1人がとても上手に披露できました。サンタクロースからプレゼントをもらい、嬉しそうに中身を確認した子ども達。普段は臥床がちな子ども、家族の方と一緒に会の間ずっと座って過ごすことができ、病室とは違う表情を見せてくれ有意義な時間を過ごすことができました。



酸素や点滴、モニタリングをしている子どもたちも参加しました

サンタクロースからプレゼントをもらったよ

院内学級の子も達による演奏

## クリスマスイルミネーション点灯式を行いました

問合せ先 総務課 TEL : 0853-20-2015

総務課総務係

当院では、入院中の患者さんに寒い冬の夜を少しでも楽しく温かい気持ちで過ごしていただけるように、毎年、冬の到来とともに庭園をイルミネーションで飾ります。11月11日(金)、参加者全員の「点灯!」の掛け声と同時にイルミネーションが光り輝き、うさぎ保育所の子どもたちは光の美しさに目を輝かせていました。そして、イルミネーションの光に包まれながら、子どもたちの元気の良い歌声と看護師さん達のハンドベルチームによるクリスマスソングが披露され、澄んだ音色にみんなが耳を傾けました。

庭園のイルミネーションは、みんなの心まで明るく照らしてくれたことでしょう。



2023年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年1月

# ご報告



## 12月1日(いのちの日)に心と体を守るための健康講座を行いました

ふじえ 副看護師長 藤江 さとみ

12月1日はいのちの日です。それにちなみ心と体を守るための健康講座を当院1階玄関ホールで行いました。寒波の到来により寒い日だったにも関わらず、多くの方に参加していただきました。

今回のイベントは、看護部の認定看護師・専門看護師リソース会のメンバーで企画し感染対策を遵守しながら開催することができました。

まず、災害看護専門看護師の森山詠美子より「いのちと健康を守る災害の備え」、次に、慢性心不全看護認定看護師の大矢菜穂子より「高血圧を管理して健康寿命を延ばそう」、そして最後に、老人看護専門看護師の藤江さとみより「フレイルを予防して老いとうまくつきあいましょう!」と題して講演しました。講演中、うなずきながら話を聞かれる方、メモを取って聞かれる方、ふと足を止めて話を聞いてくださる方もいらっしゃる多くの方に聴講して頂いた状況でした。患者さんからは、「災害はいつ来るかわからない、しっかり備えていきたい。こういう事は知ってないといけない。とてもためになりました」「このような講座は入院患者にもして頂きたい」「次の開催を楽しみにしている」等の好評をいただきました。

認定看護師・専門看護師は、専門知識を生かし、今後も地域の方に役立つ情報を発信していきたいと思っております。その他でも、お困りのことや研修会の要望などがありましたら、ぜひご相談ください。

問合せ先 看護部 TEL : 0853-20-2478



2023年1月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2023年1月

## 2022年度 がん患者・家族のためのミニパネル展

### 「がんになっても、自分らしく暮らしたい」 ～がんと診断されたあなたに知ってほしいこと～

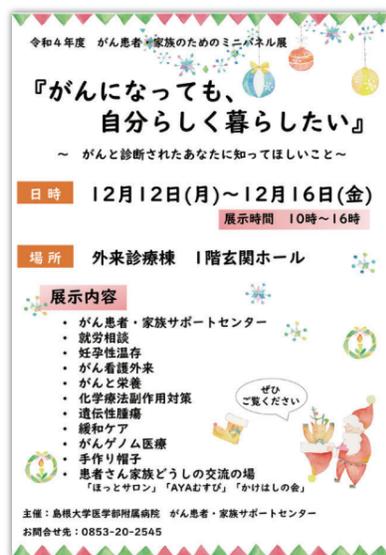
がん患者・家族サポートセンター センター長 田村 けんじ 研治  
副センター長 いまおか さおり 佐織  
今岡 けんじ 研治

がん患者・家族サポートセンターでは、患者さんやご家族が安心感をもって治療と日常生活の両立を図れるように院内外のサポート体制を周知する目的で、12月12日～16日の5日間、外来診療棟1階玄関ホールにおいてミニパネル展を開催しました。

展示内容は「がん患者・家族サポートセンター」「就労相談」「妊よう性温存」「がん看護専門外来」「がんと栄養」「化学療法副作用対策」「遺伝性腫瘍」「緩和ケア」「がんゲノム医療」「手作り帽子」「患者さん家族同士の交流の場」とし、院内の専門スタッフが患者さんやご家族に知ってもらいたい情報をわかりやすく伝えることを心がけポスターを作成しました。

パネル前では多くの方々が足を止め、ポスターをじっくり読む姿を拝見し大変うれしく思いました。患者さんから「こんなに多くのサポートがあることがわかってよかった」「手作り帽子が欲しい」「食事について勉強になった」などの感想をお聴きすることができました。

長引くコロナ禍ですが、何らかの形で情報発信を継続し、地域社会全体でがんに対する理解を深め、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を目指したいと思っております。



問合せ先 がん患者・家族サポートセンター（がん相談支援センター） TEL：0853-20-2518・2545



# ご報告

島大病院ニュース 2023年1月

## 様々な疾患を合併した 未熟児の手術を行い、 成功しました！

小児心臓外科 講師 中田 ともひろ 朋宏  
脳神経外科 教授 秋山 やすひこ 恭彦  
助教 かんばら みずき 瑞樹  
小児科 教授 たけたに たけし 健  
助教 竹谷 あごう まこ 真子  
助教 吾郷 もりやま 真子  
助教 森山 あいさ

患者さんは在胎24週、715gで出生した未熟児で、NICUに入室しました。脳室内出血後の水頭症と、動脈管開存症を合併していました。

通常、水頭症に対する治療は脳室-腹腔シャント手術（VPシャント）が行われますが、このような低体重では行えません。そのため、一時的な細いカテーテルを脳室内に留置してドレナージを行っていましたが、脳室のサイズにアンバランスがあり、脳室間交通不全が疑われました。また動脈管開存症に対して、まずはインダシンという薬による治療を行いましたが無効であり、心臓や肺の負担が強くなってきたため、生後1か月（970g）で結紮手術を行いました（小児心臓外科）（図1、2）。

その後、脳室ドレナージのカテーテルに感染が起こり（中枢神経感染）、何度もカテーテルの入れ替えと抗生剤治療を行いながら感染のコントロールを行い、体重の増加を待ち（NICU/小児科）、生後6か月（3.7kg）で、VPシャント手術+内視鏡的脳室交通術（中脳水道閉塞に対して）を行いました（脳神経外科）（図3、4）。

それ以外にも、鼠径ヘルニア根治手術（小児外科）、未熟児網膜症に対するレーザー治療（眼科）もを行い、生後7か月（4kg）で退院となりました。

当院は2021年4月に総合周産期母子医療センターが設置され、NICU/GCUもパワーアップし、重症なお子さんも小児科、小児心臓外科、脳神経外科、小児外科、眼科など様々な科の医師が協力してチームとして救命に力を注いでおります。

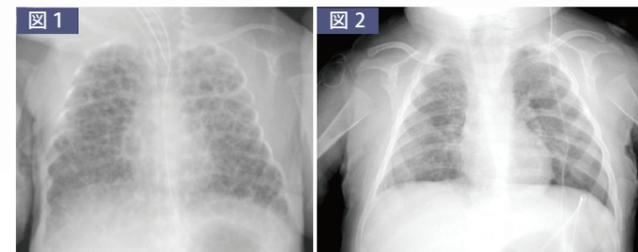


図1 動脈管結紮前の胸部レントゲン 肺血流増加により、血管影の著明な増強があります  
図2 退院前の胸部レントゲン 肺血管影は正常になりました

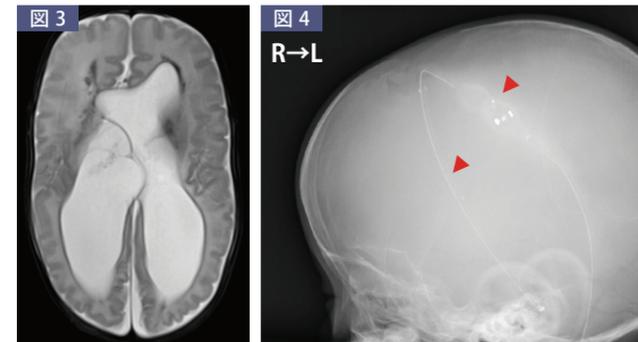


図3 術前MRI 左右差のある脳室拡張があります  
図4 術後レントゲン シャントチューブが留置されています

問合せ先 心臓血管外科 医局 TEL：0853-20-2225



2023年1月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年1月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

本邦初!

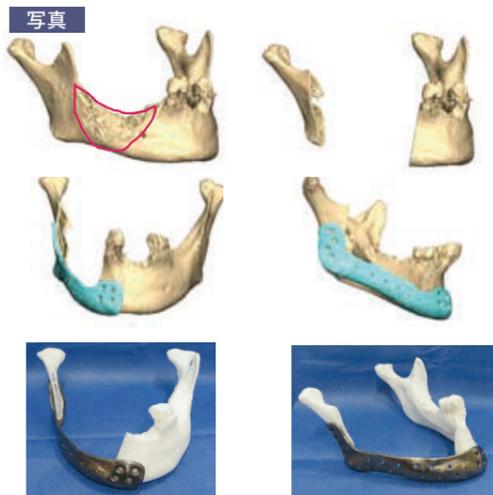
## 日本製最新デジタルテクノロジーを駆使した 顎口腔がんの切除と再建治療

### ～歯科口腔外科・形成外科連携による最新治療～

顎(あご)や口腔(こうくう)に生じる悪性腫瘍は口腔がんと呼ばれます。口腔がんの治療は外科手術による根治切除が基本ですが、切除による“顔貌の変形や機能(食べる、飲み込む、話す等)の障害”が大きな治療の課題でした。近年、顎口腔の再建手術手法が改良され、身体他部位から各種組織(骨や筋肉や皮膚等)を用いた遊離皮弁移植がなされるようになりました。しかし、依然として複雑な形態を有する“顎や口腔”の再建治療は全身の中で困難な場所の1つでした。当院歯科口腔外科と形成外科では、全国に先駆けこれまでスイス・ベルギーの医療メーカー製の患者適合型最先端の腫瘍切除ガイドと再建用プレートを用いた顎口腔腫瘍の切除と再建を数多く行なってきましたが、国外の工場で作製され輸送を要するため、診断から手術までの期間に4週間以上を要する問題がありました。

2022年8月に、新規に本邦の医療機器メーカーによる患者さんの顎骨や口腔形態を完全に再現することが可能な最先端な患者適合型再建プレートが開発され使用可能となり、約2週間と短期間で患者さんへの手術応用が可能となりました。今回、日本初の最新治療として島根県内在住80歳代の進行口腔癌(下顎歯肉癌)の患者さんに、当院歯科口腔外科と形成外科の合同チームにより手術を行い成功いたしました(写真)。本最先端治療を適応することで、遊離皮弁と患者適合型再建プレートによって患者さんの顔貌と顎口腔の機能を損なうことなく治療を行うことが出来ました。今後県内の多くの口腔がんの患者さんに対して、この最先端デジタルテクノロジーを駆使した最新治療の提供を推進してまいります。

歯科口腔外科 教授 かんの たかひろ  
管野 貴浩  
 准教授 おくい たつお  
奥井 達雄  
 形成外科 准教授 はやしだ けんじ  
林田 健志



80歳代女性患者さん  
 右側進行下顎歯肉癌に対する、下顎区域切除によるフルカスタムメイド腫瘍根治切除とレーザーを用いた3Dプリンティング(積層造形)技術による再建治療(コスモフィックス、大阪冶金興業・帝人メディカルテクノロジー)

問合せ先 歯科口腔外科 医局 TEL: 0853-20-2301



# お知らせ



## 漢方外来増設のお知らせ

漢方外来 臨床教授 おおやけ のぶゆき  
公受 伸之(循環器内科)  
 教授 ながい あつし  
長井 篤(脳神経内科)

2022年12月より、当院漢方外来では毎週水曜日(第2週を除く)午後に新たに新患・再診枠を設けました。今後さらに漢方診療を充実させていきますのでお知らせいたします。

大学病院に漢方外来があるのは意外に思われる方も多かもしれませんが、近年多くの大学病院や中核病院において、正式な診療科として漢方外来が設置されています。また多くの専門領域で漢方薬治療の知見が蓄積され、ガイドラインに治療の選択肢として掲載される疾患も増えつつあります。漢方診療のカバーする範囲は極めて広く、診療科で言えば内科・産婦人科・整形外科・精神科・小児科・耳鼻咽喉科・感染症・皮膚科・歯科等、また病気に至る前段階(未病)で介入する予防医療・体質改善にまで及びます。

高齢化及びストレス社会の日本で、患者さんの症状を緩和することは疾患を治療することと同じくらい重要です。症状緩和を中心に考える漢方医学と疾患治療中心の西洋医学は相反するものではなく、お互いが補ってこそ全人的な医療が実践できるものと思います。特に日本は、西洋医学の医師が漢方診療も行うことのできる世界的にも唯一の国であり、両者の良いところを取り入れて保険診療ができるという基盤もしっかりしています。

当院漢方外来では、外科系及び内科系の専門医が診療に携わり、大学病院という強みを活かして関連診療科と連携し、適切な診療を提供いたします。漢方診察は四診(望診、聞診、問診、切診)で行いますが、必要に応じ西洋医学的検査も行います。漢方薬はエキス剤(細粒、カプセル、錠剤)を用い、病態によっては西洋薬も併用いたします。病歴や治療歴が重要となりますので受診の際には紹介状を持参していただくと診療がスムーズとなります。

お困りの症状があれば、是非ご利用いただきますようお願いします。



漢方薬は生薬から作られ、エキス剤と煎じ薬があります。

### 漢方外来

- ・第2週木曜日午前 長井 篤
- ・第3、5週金曜日午後 宮本 信宏
- ・毎週水曜日午後 公受 伸之  
(第2週を除く)

問い合わせ先

TEL 0853-20-2381 (内科系)  
 TEL 0853-20-2384 (外科系)

